

奨励賞

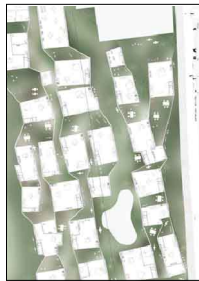
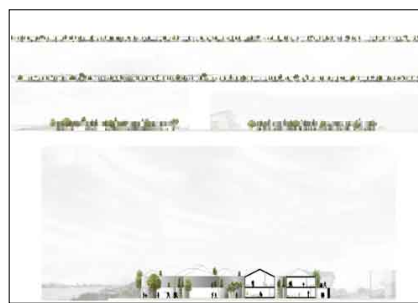
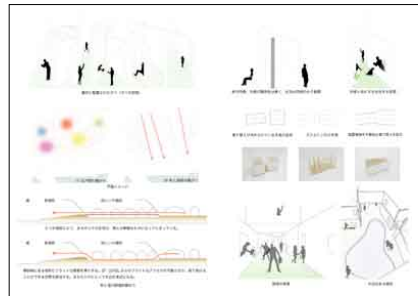


## 繋げるカベ

羽田地区における木造住宅密集市街地再開発手法の提案

上条 経伍(かみじょう けいご)

日本大学 理工学部 海洋建築工学科



カベの空間は『遮断・繋げる』の両義性を備えた場であると考えられる。

木造住宅の既存の壁を補強しながら並列してカベを形成することでそれぞれの空間を明確にし、緩やかな空間の連続性を形成する。今までのようなスクラップアンドビルドを減らす一つのアーキタイプとして、使い続けることが保存の本質であるにとらえ、できる限り既存のものを生かしながら耐震補強を兼ねた建て替えを図る。そこには、作為性を持たない路地空間と居住空間が生まれる。近代の住居は地域と何の連帯もなくとても閉鎖的であるが、住戸のはみ出しが可能となり共有空間も私的に侵食していく。路地の魅力を活かしつつ新しい時代に対応させる。



【講評】この作品は、羽田地区における木造住宅密集市街地再開発手法の提案である。

老朽化した既存の木造住宅の耐震補強を兼ねて、新たな「カベ」を縦断に連続的に配置・挿入している。作者はこの配置・挿入した「カベ」により、プライベート空間とパブリック空間を緩やかに連続させることを意図している。既存の路地的空間を立体的に再構成し、既存の雰囲気を持しつつ魅力的なコモンスペースを提案している。面白いのは「カベ」を1階は水辺に対して平行配置、2階部分を直交配置としている点である。このことによってできた「上の道」は、2F部分へのアクセスであり、そして水辺へのパブリック空間として機能している。提案するにあたり、敷地に対して調査分析を入念に行なっている点も評価できる。提案としては非常に魅力的ではあるが、実現するにあたり、更新も見据えた耐震補強壁の工法やシステム、災害時の考え方など、もう一步踏み込んだ提案が加わるとさらに良い評価が得られたのではないかとと思う。

(審査員：中野正也)